



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2021/11/06 公開
◆終末預言シリーズ (前兆編) ◆

#12 「レフト ビハインド 世界統一政府出現の条件」

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。聖書は人類の未来を預言する預言書でもあるということで、このシリーズの紹介をしております。その預言によると、やがて世界統一政府が出現する。それは、患難時代の前に起こる6番目の前兆でしたね。前回の動画でその説明をしました。

しかし、今の国際情勢をよーく見渡すと、それが起こるのは決して簡単ではないことが分かるんですね。独裁国家で蹂躪されている人々以外は、一般には、自分自身が所属している国家や歴史に対して愛着を感じるのが普通だからです。自分が所属している国が、何か他の大きな力・大きな統一政府のコントロール下に入ることを歓迎するのは一般には考えにくいことです。

しかし、聖書は“そうなる”と預言しているんですね。それが実現するためには、少なくとも3つのことが揃ってなければなりません。今日はその1つをご紹介します。

それは、現在の覇権国家が急速に劇的に国力を失うということです。覇権は英語でヘゲモニー。政治力・経済力・軍事力において、他の国を全く寄せ付けないような圧倒的なスーパーパワーを持っているような国のこと。覇権国家。

20世紀初めまで、覇権国家は大英帝国でしたね。大英帝国が黄金時代の時、実は世界は平和だったんです。それをパックス・ブリタニカと言います。パックスはラテン語で平和。ブリタニカは大英帝国のこと。大英帝国の目が光っているために世界は平和で安定していた。大英帝国の後、アメリカが世界の覇権国家になります。パックス・アメリカーナ。アメリカによる世界の平和。アメリカの政治力・経済力・軍事力によって、世界の秩序が守られている時代のことですよ。

しかし、いかなる帝国も、いかなる覇権国家も、その力を永久に維持することはできません。いつかは衰える。いつかは相対的に劣化していくんですね。現在世界を見渡すと、今もアメリカが世界ナンバーワンの国力を持っていることは否めませんが、相対的にはやはり落ちています。そして米中二強の時代…アメリカを追い越そうとする中国と、そうはさせまいとしているアメリカの、せめぎ合いの時代に入っていると言えるでしょう。

ところで、中国だけでアメリカに立つことはできません。そこで中国はロシアと組んで、事あるごとにパックス・アメリカーナに挑戦しようとしているんですね。パックス・シナ。中国帝国・中華帝国による平和の時代を築きたいという野心に基いて、習近平は色々な策略を繰り出しているところです。

アメリカの同盟国は西側の国々です。中国の頼みの綱はロシアを中心とした専制主義の国々ですね。この2つの陣営が歩み寄って「統一政府を造りましょう」と仲良く手と手を組むようなことは、そういう発想は非現実的です。追い抜かれまいとする国と、何としても追い抜こうとする国の間には緊張関係が走るもので、お互い手打ちで「1つの帝国、大きな政府を造りましょう」なんてことは起こらないのです。

しかし、この 2 つの陣営を同時に襲う、もう人類歴史上最大の激変、大きな事件が起こると聖書は預言しています。

このシリーズでは、患難時代の前に時代順番に起こる 10 個の前兆について紹介してきました。その中で敢えて今まで伏せてきた、言わなかった大異変があります。それが**携拳（けいきよ）**です。携拳の“携”は携えるという意味。“拳”は推拳・選挙、上にあげる・移動する意味。携拳は上に引っ張り上げるという意味です。

これを聖書で言うと、地上の全てのクリスチャンを空中に引っ張り上げて、天に連れて行くこと。いったい誰が連れて行くのか。キリストによって、クリスチャンたちが一瞬にして天に引き上げられる。これを聖書は**携拳**と言っているのです。携拳という言葉自体は出て来ないけど、その概念が出て来るんですね。

これは瞬間的に起こります。そして、いつでも起こり得ることなんです。この動画をご覧になっている今この瞬間にも起こり得るんです。時系列に起こる順番のどこか、と固定できるものではありません。いつでも起こり得る。1 つだけはっきりしているのは、患難時代の前に起こるということです。

携拳の瞬間、形式上のクリスチャン…例えば、洗礼受けてるからクリスチャンとか、ウチは先祖代々クリスチャンの家だから私もクリスチャンとか、そういう形式的なことではなく、個人的にイエス・キリストを自分の救い主として受け入れている人たちは皆、例外なく 1 人残らず携拳されます。忽然と姿を消す。

そのようなことが世界で同時に起こったらどうなるでしょう？
クリスチャンがたくさんいる国ほど大きな変化、はっきり言ってダメージを受けることになりませぬ。今世界に 208 の国々がありますが、最もクリスチャン人口の多い、世界最大級のクリスチャンを擁している国はどこか？ズバリ、中国とアメリカです。

「中国は共産主義の国じゃないか。特に習近平になってから、ムチャクチャ酷いことやってるぞ。毛沢東時代の再来を目指しているじゃないか。宗教は弾圧の対象ではないか。」その通り。
しかし弾圧下で、地下教会という非公式・非公認で、政府の目を逃れて集まっているクリスチャンの群れがあるんです。

読売新聞の情報によると 7 千万人以上います。14 億人の内の少なくとも 7 千万人以上の、純粋なシンプルな信仰のクリスチャンがいる。それが中国。この 7 千万人が忽然と姿を消したら、中国国内はどうなるでしょう。中国の中では、彼らは出世できません。共産党員になれないから。中国では共産党員にならなければ要職に就くことはできないので、彼らの社会的影響はそんなに大きくないかもしれません。

ところが、アメリカではそうではないんです。アメリカは非常に特異な国で、世界の中でも、クリスチャンが非常に指導的なポジションに就いていることが多い国なんですね。
アメリカのクリスチャン人口は約 8 千万人とされています。アメリカの人口は 3 億 3 千万人なので 25%・1/4 はクリスチャン。自称クリスチャンを入れると、人口の 8 割がクリスチャンだそうです。しかし私は敢えて、ちゃんとカウントできるデータ、少なめのデータを採用しました。

少なくとも 8 千万人いると言われているクリスチャン、真っ当な信仰を持っている本物のクリスチャンが、アメリカにおいては国家の政治・経済・軍事の中核で活躍しているのです。
アメリカ社会の中で非常に指導的立場というか頭脳の部分に勤務・従事している。

アメリカの1番重要な部分を一定数のクリスチャンが占めている。

このような国から、一瞬にして忽然と1億人近いクリスチャンが消滅したらどうなるでしょう？

人口が1/4以上消滅するだけでなく、国家の指導者グループの中から良質の人材がごっそり消えてなくなったら、アメリカの国力はどうなるでしょう。激減することが考えられます。

つまり、アメリカは今までのような覇権を維持できる国ではなく、携拳の前後で国力が突然ガーンと落ちて、今の中南米の国の1つのような国になってしまう。その可能性が高いのではないかなと思います。

さて、世界統一政府の出現を考えた時、アメリカの中に、最もこれに抵抗する・警戒する・目を光らせているグループがあるんですね。特に福音派（ふくいんは）と言われている人たちです。

福音派は聖書を顔面通り信じている人たちで、世界統一政府の出現に対して非常に警戒し、また敏感になって目を光らせているんです。聖書預言を信じているから。

聖書預言によると、統一政府の出現が患難時代の前に起こる前兆なんですね。だから、福音派の人々はグローバリズムに抵抗するのです。反キリストの登場を阻止するために、それに抵抗するんですね。

グローバリズムは地球全体を1つの共同体として捉える考え方です。

地球は英語で Earth/アース。同時に、球体としての地球を指す時は Globe/グローブと言うんですよね。

グローバリズム（Globalism）はグローブ（Globe）から来てるんです。地球主義が英語で Globalism。

国家という枠組みを超えて、1つの統一政府・1つの共同体として これからの世界を運営していこうという考え方です。多国籍企業や GAFAM（ガーファム）に代表される IT の巨大企業などは、まさにグローバリズムと言えらると思います。

アメリカの中には、グローバリズムを推進していきたいと思っている GAFAM に代表されるような多国籍企業推進派がいます。同時に、グローバリズムを警戒する人たちがいます。その代表が福音派です。

携拳があって、アメリカの中から福音派の人々だけが忽然と姿を消したらどうなりますか？

アメリカにはグローバリズム推進の人しかいなくなるんですね。

そうなると、今グローバリズムに対して反対の声を1番強く上げている人々がなくなった後のアメリカは、グローバリズム推進に突き進んで行く。これは火を見るよりも明らかです。

世界統一政府出現のために必要なことが3つあって、今日は1つ目でした。

次回は、この3つをもう少し詳しく、まとめてざっとご紹介したいと思います。

できれば チャンネル登録もよろしくお願いします。

ではまた このチャンネルでお目にかかりましょう。皆さん、それまでお元気でいらしてください。

さよなら！